

目の部屋 と 手の部屋



美術館では、静かに「目」で見て、作品を楽しむものとされています。しかし、作品にまなざしを投じることだけが、鑑賞の方法なのでしょうか。本展は、目（視覚）と手（触覚）という異なる感覚器官による作品鑑賞をとおして、「作品を見る」ことの広がりを探っていく試みです。

「目の部屋」には絵画作品を中心に展示しています。来場者の皆さんには、一枚の絵に時間をかけて、じっくりとご覧いただくことをおすすめします。そして作品の中に何が見えるか、どんなことが起こっているのかを言葉にしてみてください（心の中でor誰かと話しながら）。

「手の部屋」には、立体作品が展示してあります。ここでは、手袋をはめて作品にふれることができます。皆さんの「手」は何を感じとるのでしょうか？「手」から得られたことを、ぜひ言葉にしてみてください。

会期中には、ファシリテーターと会話をしながら作品を見る「対話型鑑賞」や、アイマスクをつけて「手」だけで鑑賞する「'さわる'ギャラリー・トーク」など、いくつかの関連イベントもご用意しています（詳細別紙）。

ギャラリーIII +

井手宣通記念ギャラリー

2023.3.8(水)~5.14(日)

10:00-20:00 入場無料 火曜休館 *3月21日は開館、翌22日は休館